

グラフでみる加工食品の 生産・販売、外食等の指標



目次

< グラフでみる生産販売統計 >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

- ・消費構造の変化



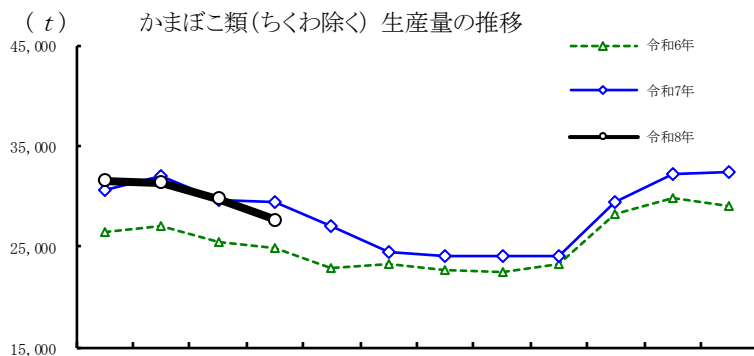
1. 加工食品の生産動向

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。<https://www.fmric.or.jp/stat/index.html>
 ここでは、加工食品の主な品目別の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。
 なお、詳細は、**11ページ**以降の「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

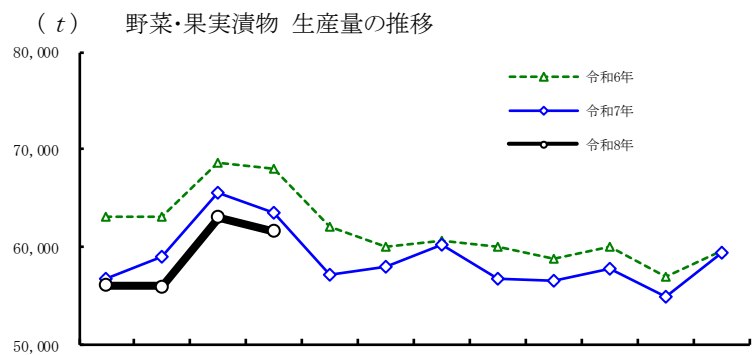
4月 5.9% 減少



○ 野菜・果実漬物

生産量 対前年同月比

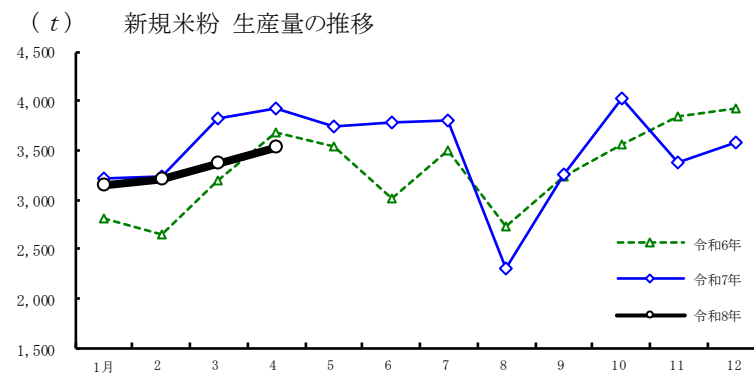
4月 3.0% 減少



○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

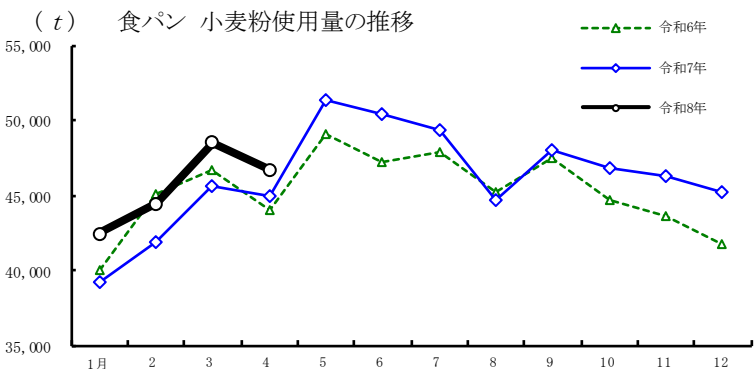
4月 10.1% 減少



○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

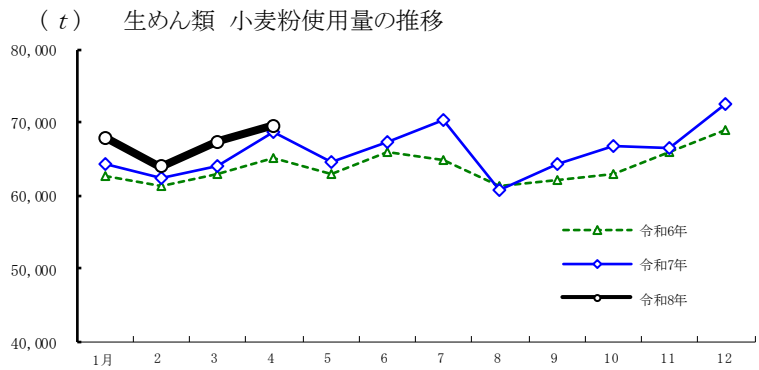
4月 3.9% 増加



1. 加工食品の生産動向

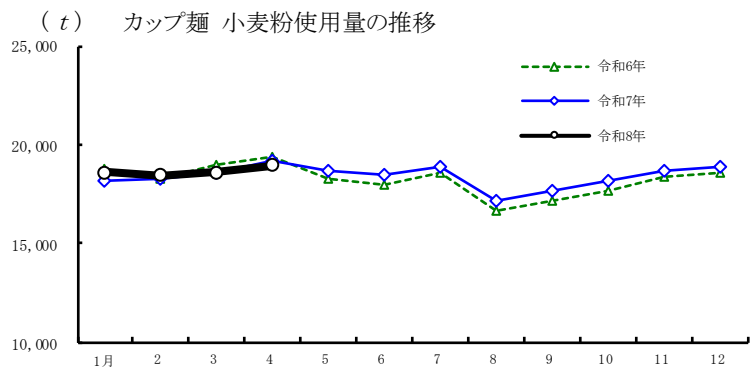
○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比
4月 1.4% 増加



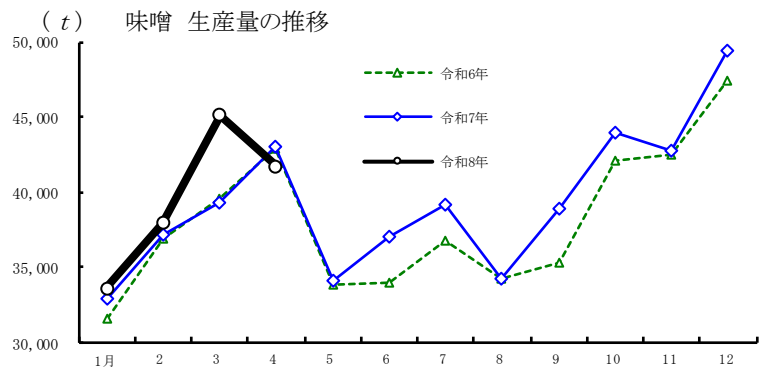
○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比
4月 1.1% 減少



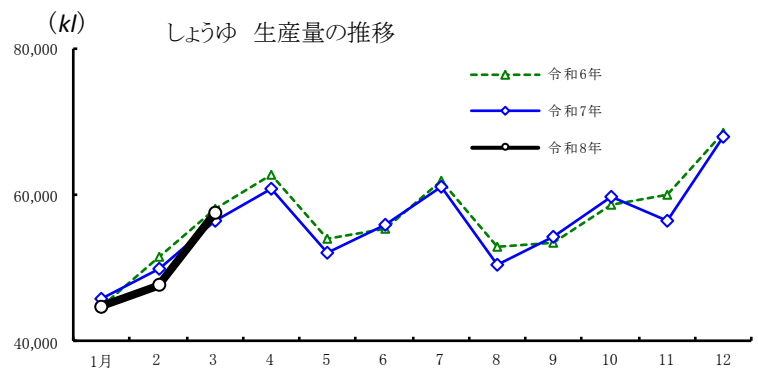
○ 味噌

生産量 対前年同月比
4月 2.9% 減少



○ しょうゆ

生産量 対前年同月比
3月 1.5% 増加

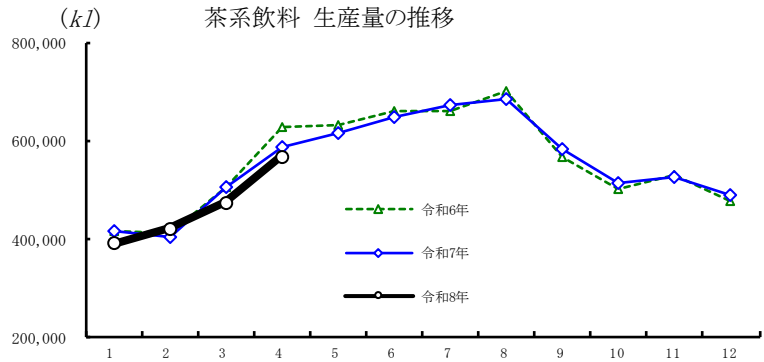


1. 加工食品の生産動向

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

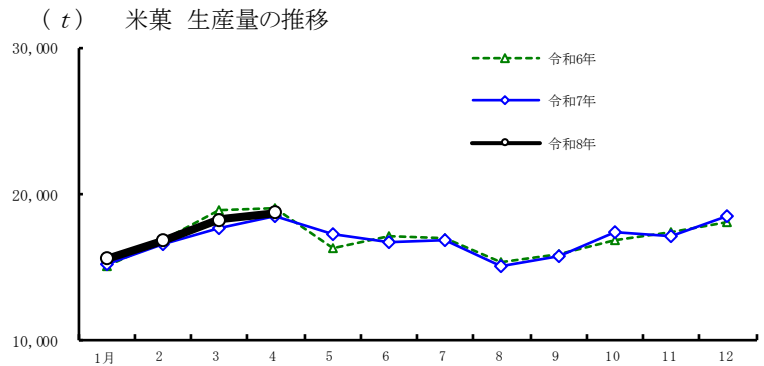
4月 **3.2% 減少**



○ 米菓

生産量 対前年同月比

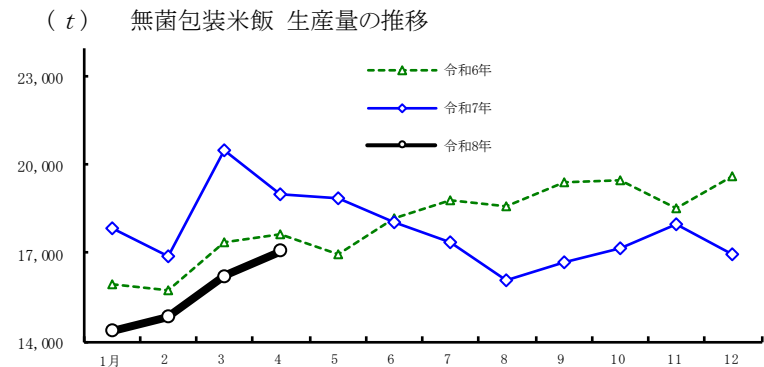
4月 **1.2% 増加**



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

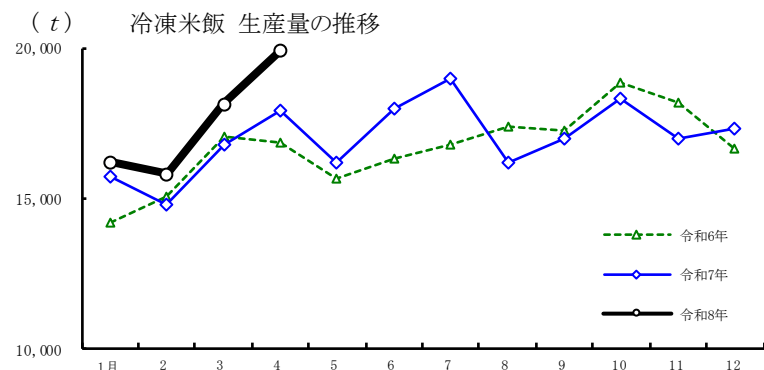
4月 **10.0% 減少**



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

4月 **11.1% 増加**



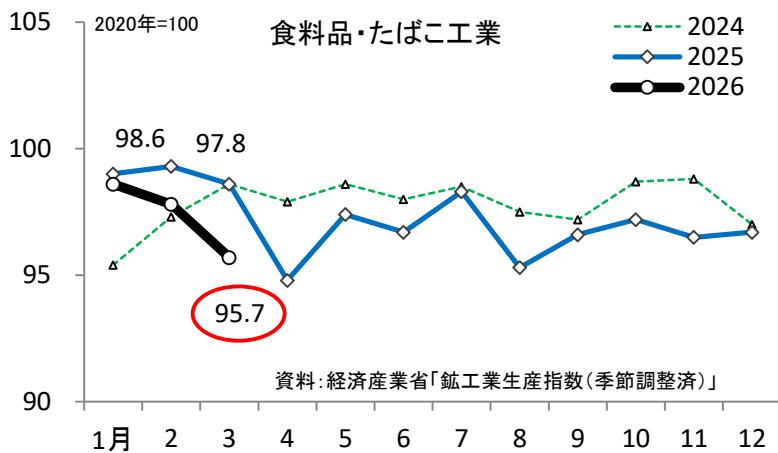
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

3月 2.9% 減少

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。

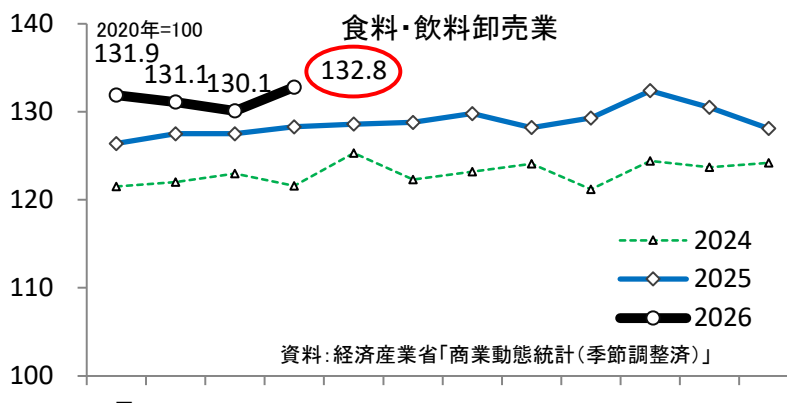


2. 食品卸売業・食品小売業

○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

4月 3.5% 増加

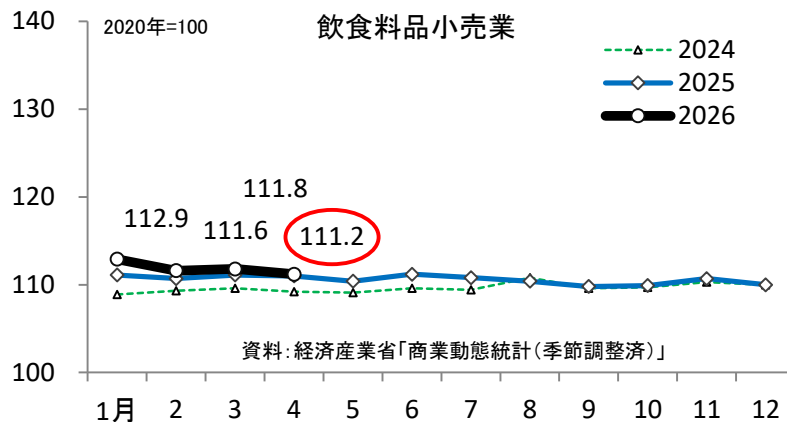


経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別(スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高(月次速報)について、みることができます。

○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

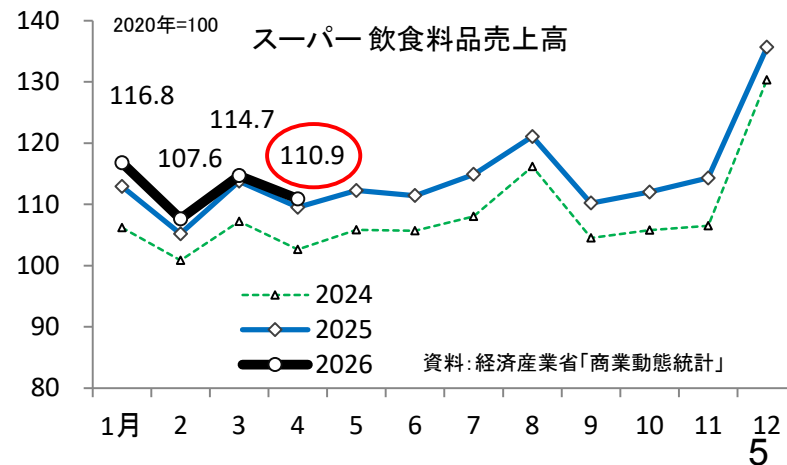
4月 0.2% 前年並み



○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

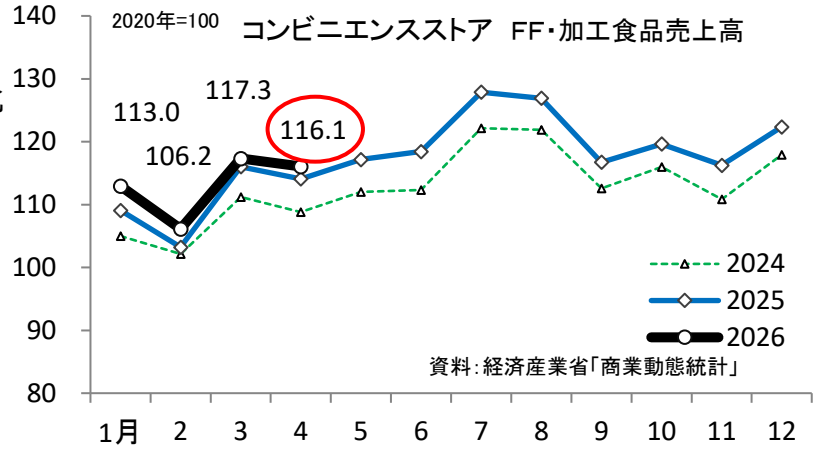
4月 1.3% 増加



2. 食品卸売業・食品小売業

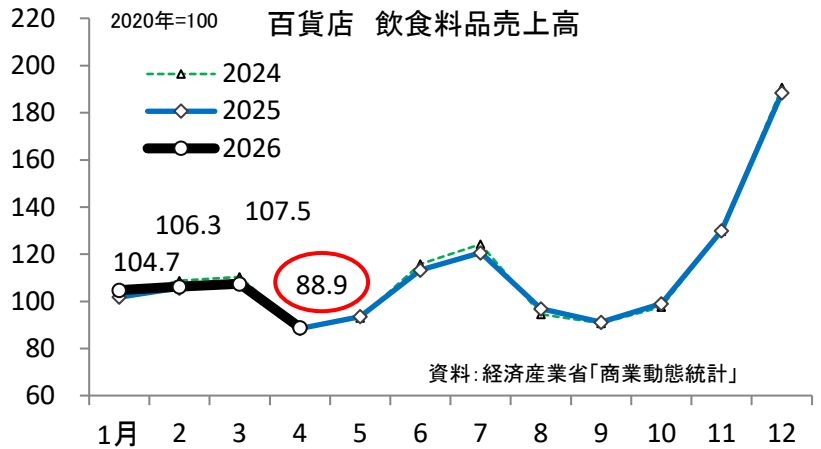
○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比
4月 1.7% 増加



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比
4月 0.4% 前年並み

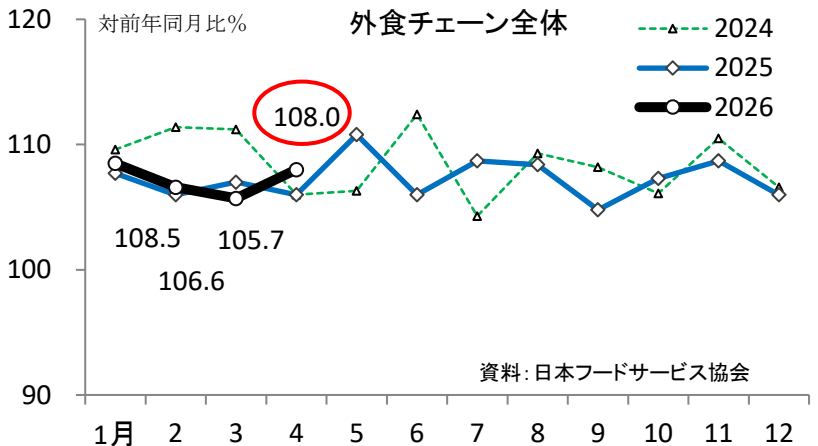


3. 外食産業

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

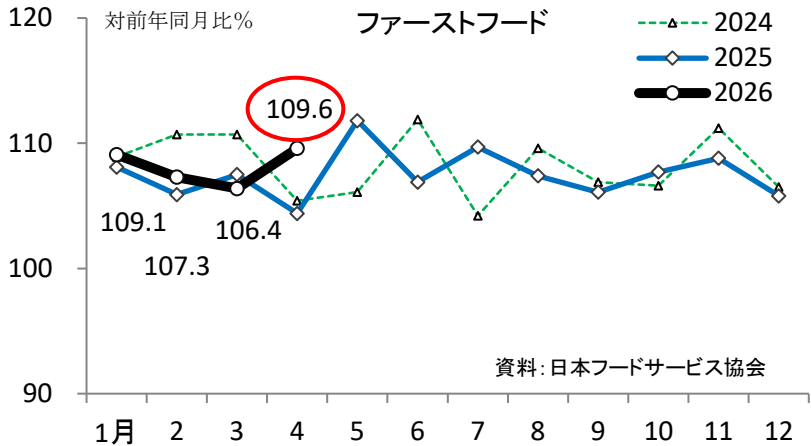
全店売上高 対前年同月比
34月 8.0% 増加



3. 外食産業

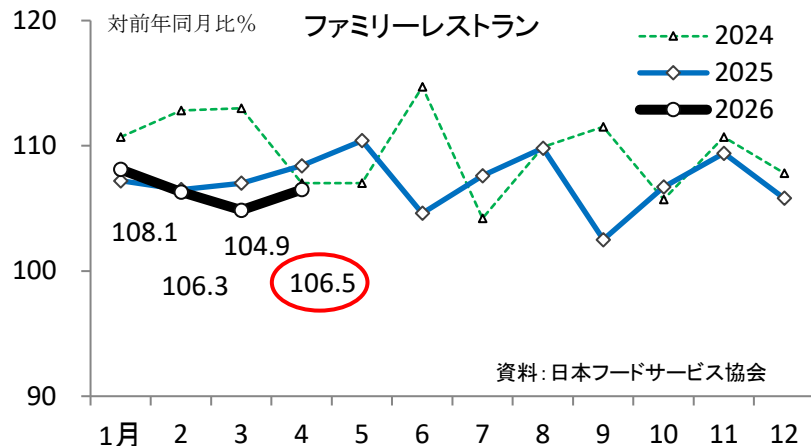
○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比
4月 9.6% 増加



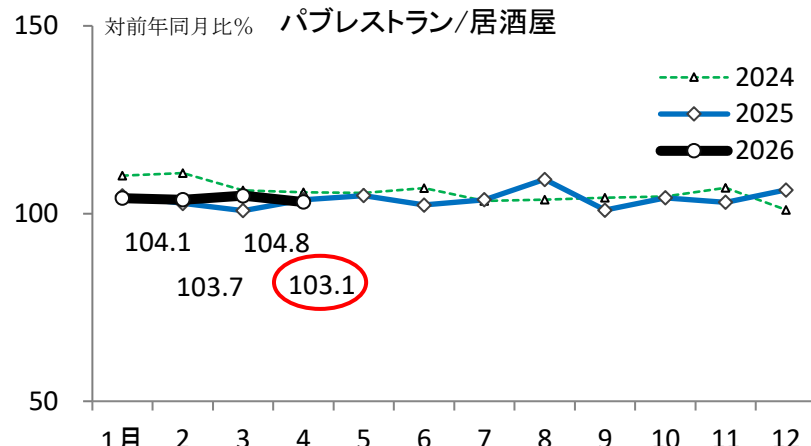
○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比
4月 6.5% 増加



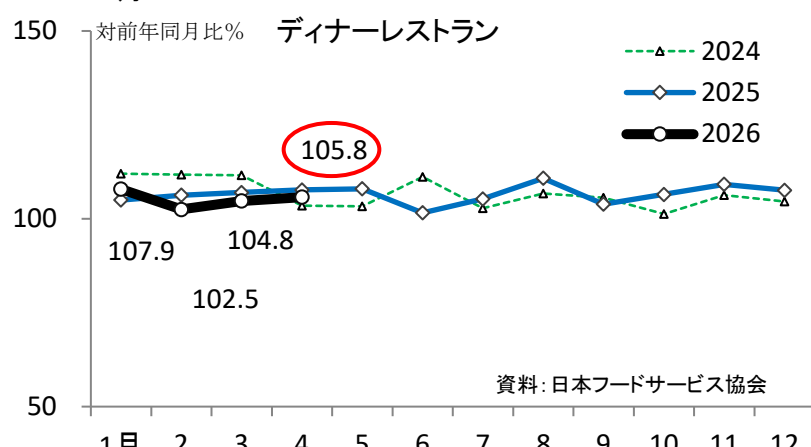
○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比
4月 3.1% 増加



○ デイナーレストラン

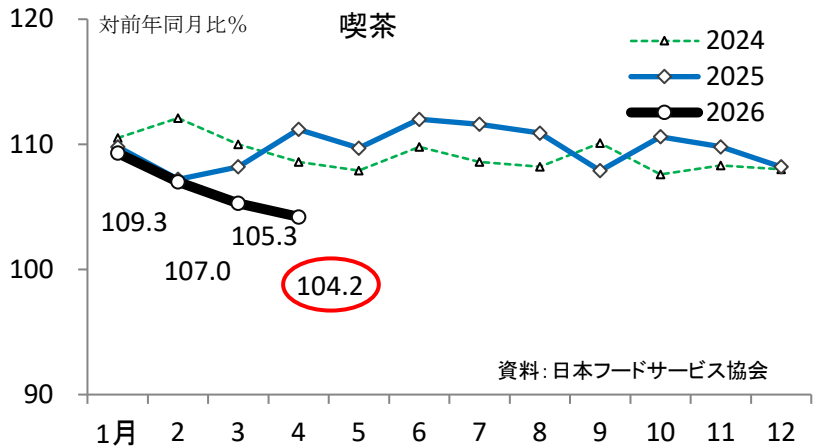
全店売上高 対前年同月比
4月 5.8% 増加



3. 外食産業

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比
4月 4.2% 増加



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

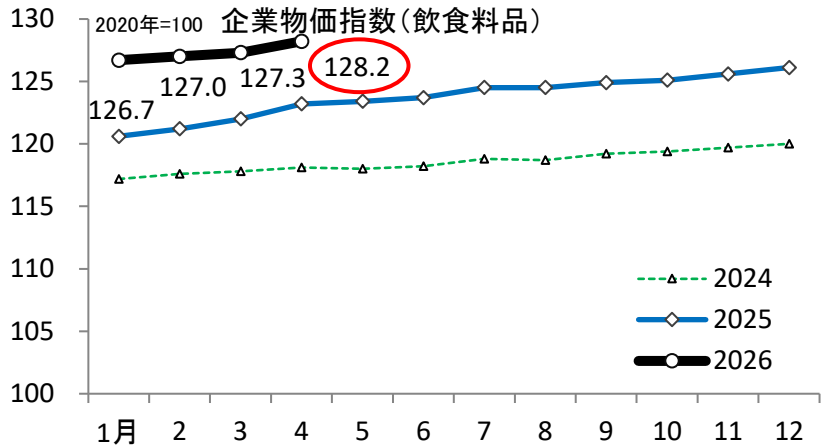
企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として、指数化したもの。

このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比
4月 4.1% 上昇



○ 消費者物価指数

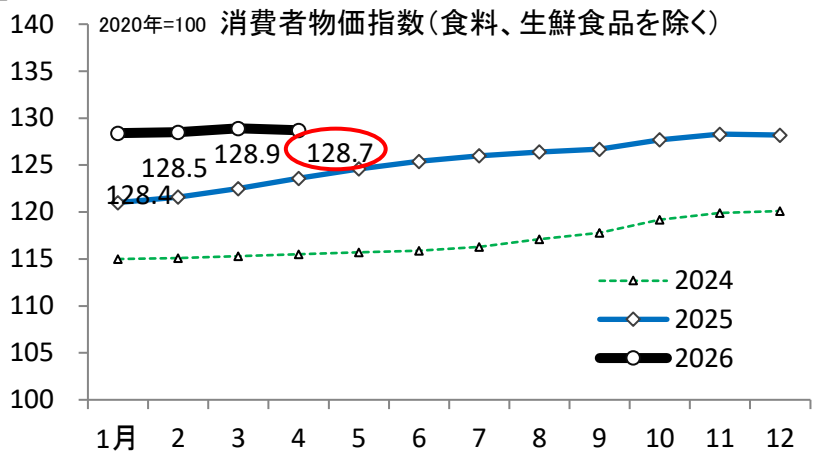
消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 （食料（生鮮食品除く））

食料 対前年同月比
4月 4.1% 上昇

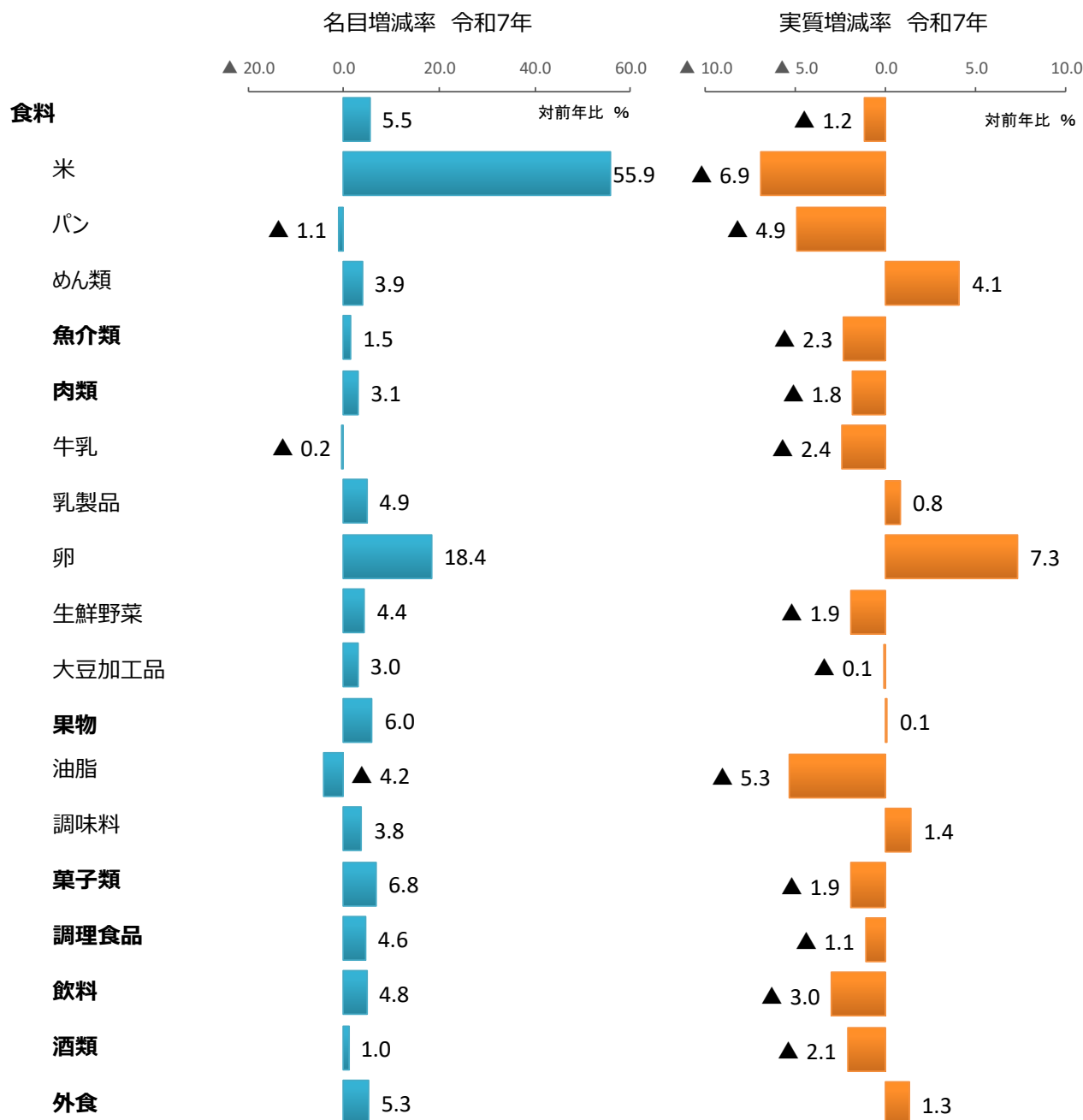


令和7年の家計調査における食料支出額の実質増減率は対前年比▲1.2%とわずかに低下

総務省「家計調査」によると、令和7年の食料全体の支出額は対前年比5.5%とやや増加となったが、この名目増減率から物価の変動の影響を取り除いた実質増減率は同▲1.2%とわずかな減少となった。食料の支出額は増加したものの、物価の上昇の影響が大きかったことがうかがえる。

品目別についてみると、実質増減率で減少幅が大きかった品目は、米、油脂、パン、飲料、牛乳、魚介類、酒類、生鮮野菜、菓子類、肉類、調理食品等となっている。

図1 家計調査における食料・主な品目の支出額増減率



資料：総務省「家計調査(二人以上世帯・全国)」 注：太字は大分類・中分類

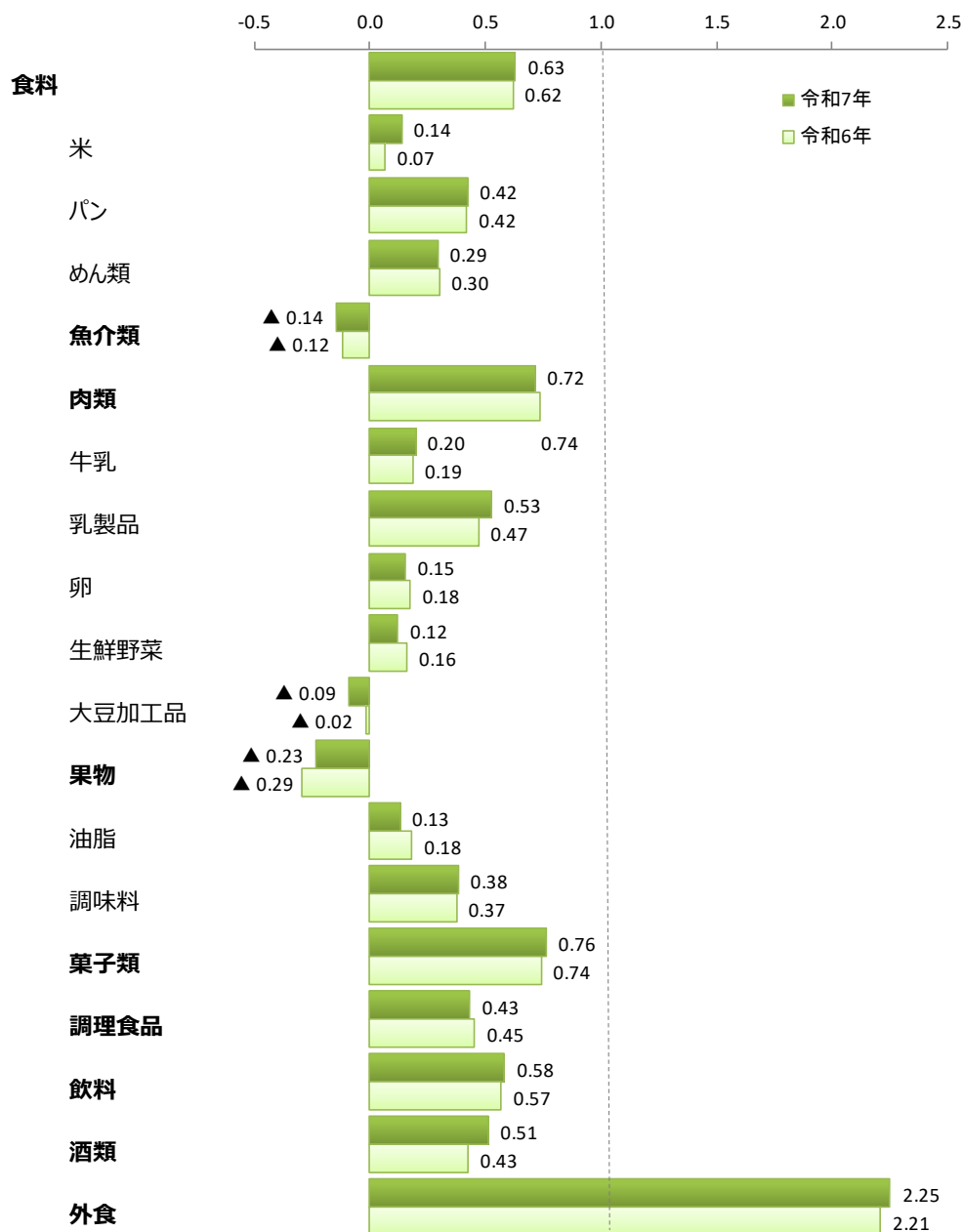
注：実質増減率 = ((100 + 名目増減率) ÷ (100 + 各項目に対応する消費者物価指数の変化率) - 1) × 100

令和7年の食料品の支出弾力性が高いのは、外食、次いで菓子類、肉類、飲料、乳製品

令和7年の食料品の支出弾力性は、総務省「家計調査」によれば、0.63となっている。品目別にみると、外食の値が最も大きく2.25、次いで、菓子類が0.76、肉類が0.72、飲料が0.58、乳製品が0.53、酒類が0.51、調理食品が0.43、パンが0.42等となっている。一方、値が最も小さいものは果物の▲0.23、次いで魚介類の▲0.14、大豆加工品▲0.09となっている。

一般的に食品は1を下回ることから、基礎的支出（必需品）に分類されている。なお、外食のように1を上回り、弾力性の値が大きいものは、消費支出総額が増加するときに支出が大きく増加するものであり、選択的支出（贅沢品）に分類される。

図2 家計調査における食料・主な品目の支出弾力性



資料：総務省「家計調査（二人以上世帯・全国）」

注：太字は大分類・中分類